

## オリジナルイベント開催概要

イベントタイトル	海と川で生きるウナギを知り、愛知の自然環境を守ろう！
実施期間	2021年10月31日(日曜日)
開催場所	愛知県蒲郡市、豊川市
参加人数	19人(小学5年生8名、小学6年生11名)
主催	海と日本プロジェクトin愛知県 実行委員会
協力団体	愛知県立三谷水産高等学校、愛知県水産試験場、 NPO法人穂の国森づくりの会
開催概要	<p>海と日本プロジェクトin愛知県実行委員会は、愛知の自然環境について学ぶことを目的として、10月31日(日)にオリジナルイベント「海と川で生きるウナギを知り、愛知の自然環境を守ろう！」を開催しました。</p> <p>このイベントでは、愛知県唯一の水産高校で行われた伝統の漁法を用いたウナギの捕獲、及びモニタリングによって、三河地方にたどり着いたシラスウナギの生態や川への遡上ルートを観察しました。</p> <p>また干潟がウナギを含む海の生物に与える影響や、森林の腐葉土から流れる栄養素が海洋性植物プランクトン、動物性プランクトンの増加に影響を与えること、すなわち、陸での生活が海洋環境と関わっていることも学びました。</p> <p>後日、イベントで学んだことをイラストとメッセージにして宿題として提出してもらいました。これらは、Twitterで発信すると共に、イラスト部分は割り箸の紙袋に印刷して県内のうなぎ屋等で配布しています。</p> <p>なお、当初は8月下旬に1泊2日で実施予定でしたが、コロナウィルス感染状況の悪化に伴い延期、調整の結果1日でスケジュールを組むことになりました。その代わりに「宿題」を出して、各自が後日に見直す機会を作りました。</p>



## イベント詳細

### イベント詳細

#### 1. ウナギの生態を知り、ウナギが生息できる環境について考える

講師:小柳 清彦、小林 清和(愛知県立三谷水産高等学校教師)  
県内唯一の水産高校・三谷水産高等学校で、ウナギの研究をする高校の先生から、話を聞きました。ウナギの生態、養殖について、伝統漁法である「石倉かご」の仕組み、生態を調べるためのモニタリング方法など、専門的な知識を得ました。  
校内には「資源棟」と呼ばれる研究施設があり、実際のウナギを観察し、大きな水槽で泳ぐウナギにエサをやる体験をさせてもらいました。小学生たちは、ウナギが競ってエサに群がる様子を見て、興奮気味でした。

#### 2. 干潟の役割を知り、海の生き物の生育に適した海の環境を学ぶ

講師: 蒲原 聡(愛知県水産試験場 副場長)  
ウナギのエサとなるエビやカニが生息する干潟。しかし近年、干潟や浅場は埋め立てなどにより減少、これを再生するため、愛知県では造成工事が行われていることを聞きました。干潟は海の生き物にとって大切な栄養源。愛知県水産試験場の方に詳しい話を聞いて、近くの干潟を訪れました。当日のこの時間は残念ながら干潟になっていませんでしたが、海には鴨、空にはトンビが集まっていて、エサとなる魚が多くいることがうかがえました。

#### 3. 源流部である山の役割及び海との関連性を学ぶことで、栄養価の高い干潟がどのように形成されているのかを学ぶ

講師:森田 実(穂の国森づくりの会 事務局長)  
川の源流部が海に与える影響を考えました。源流部とはどんな所なのか、源流部がどんな状態であれば河口付近の干潟に栄養を運べるのか? 森林の手入れをしないと、土砂や流木、ゴミが河川を通じて海に流れ、海の環境が荒れてしまうことを知りました。  
講師から話を聞いた後、実際に草木が茂る森へ行って、里山の整備を体験しました。

#### 4. アウトプット

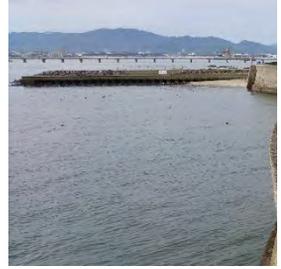
後日、イベントで学んだことをイラストとメッセージにして宿題として提出してもらいました。これらは、Twitterで発信すると共に、イラスト部分は割り箸の紙袋に印刷して県内のうなぎ屋等で配布しました。  
また、イラスト部分は、「海と日本プロジェクト」の啓発文言を添え、割り箸の紙袋に印刷して2種類製作、豊橋市を中心としたうなぎ屋、南知多町の「魚太郎」等で利用されています。

# イベント写真

## 《1》



## 《2》



## 《3》



# イベント写真

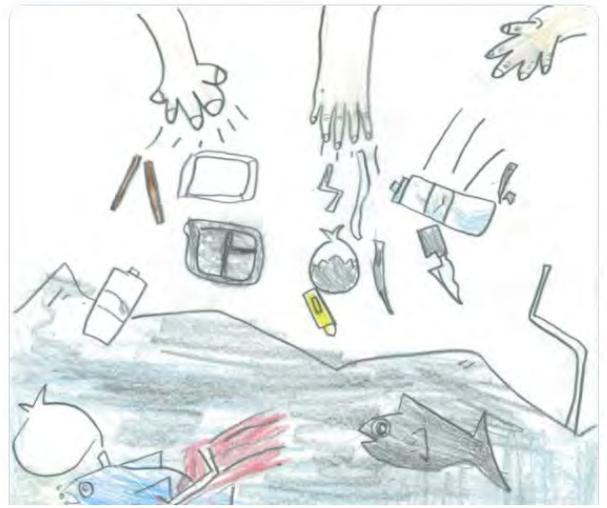


・豊橋市のうなぎ屋「丸や」で使っていただきました。

・2021年11月11日から毎日1人ずつ投稿。

海と日本プロジェクトin愛知県 @uminohi\_aichi

愛知の自然環境🌊🌿を守ろう！ <その8>  
 ぼくは、海と森を守らないと環境にも地球にもよくない  
 と思います。  
 それをしないと、魚にも影響が出るし、海が汚れると  
 思います。  
 だから、まず小さいことでもいいから森や海、環境な  
 どを守らないといけない、と思いました。  
 #海と日本



## その他

### その他の自主的な取組

#### ・SNSでの施策

Twitterで、イベント当日はリアルタイムでイベントの様子を投稿するなど、積極的にSNSを利用して発信しました。

参加者の保護者をフォロワーとして取り込むこともでき、保護者から「何をやっているかわかって安心できた」「お昼に何を食べたのか知ることができた」など、肯定的なご意見をいただきました。

### 配布物

#### 取材ノートと、オリジナルキャップ

